

来年の春闘 連合、近年で最大の額

連合は来年の春闘で、傘下の中小企業の労働組合が要求する賃上げ額として、月給ベースで9500円を目安に掲げる方針であることが13日、関係者への取材で分かった。ここ数年の4500円プラス月給1%分(計6千7千円)を大きく上回る額。

大企業を中心に業績改善が進む中、既に連合全体でベースアップ要求を決めており、さらに中小労組や地方に賃上げを波及させる狙いがある。連合や産業別労組の幹部による会合で大筋了承されており、12月3日の中央委員会で正式決定する。

9500円の内訳は、定期昇給(定昇)分に相当する額として4500円。ペアと「賃金格差是正分」を合わせて5千円としている。

連合は来春闘で、月給の約2%に当たる定昇分と、

1%以上のペアを要求する方針で、大企業と賃金差がある中小企業の場合は、格差是正分としてさらに1%程度を求める考えを示した。

ただ、中小労組を多数抱える産別労組からは「パーセンテージで示す要求は分かりにくい。大企業よりもともの賃金水準が低い中では、逆に格差が広がりがねない。具体的な金額を示した方がいい」との声が

とされた。しかし、その後はリーマン・ショックによる不況が響き、定昇相当分を維持する要求が中心となっていた。

連合傘下の中小労組は少なくとも、今年の春闘で経営側から回答があった労組だけで約3500あり、組合員約31万人が加入している。

全国規模の労働団体はほかに全労連、全国労働組合連絡協議会(全労協)があるが、連合が組合員約675万人と最も多く、影響力も大きい。

金額は、80万円台を2年ぶりに回復。景気の改善傾向を反映した形で、業種別では為替の円安進行で業績が大幅に改善した自動車13・02%増の91万5818円と、第1回集計では過去最高の伸び率となった。

今回集計した企業の多くは、2013年の春闘で既に夏のボーナスを決めていた。安倍政権は、デフレ脱却のため経済界への賃上げ要請を強めている。経団連は、12月下旬に予定している最終集計も高い伸び率になるとみている。

農林水産省は13日、水田で作る作物を主食用のコメから飼料用のコメに変えた農家に配る転作補助金の仕組みを2014年度から変え、収穫量が平均を上回れば、補助金を現在の10%当たり8万円から増額する方針を固めた。

針を固めた。ば減額する仕組み、農家の意向を促す。

生産調整(減反)に参加する助金の減額を助金の減額を助金の減額を下がるのを

平均収穫以上

農水省 飼料

製造業は0・2%増の64万 安倍政権で

伊勢の横輪いも推進協議会 設立総会 趣意書締結式



伊勢市長 鈴木健一
岡澤執行役員 岡村正章

趣意書に署名した(左から)岡澤執行役員、鈴木健一市長、上田会長ら=伊勢市岩渕の市観光文化会館で

「横輪いも」生産増へ

住民、企業、行政で推進協議会 伊オンで販路拡大も

伊勢

【伊勢】伊勢市横輪町の住民でつくる横輪町活性化委員会(上田和夫会長)とイオンリテール(本社・千葉市、梅本和典社長)、伊勢市、梅本和典社長)、伊勢市岩渕の市観光文化会館で、「伊勢の横輪いも推進協議会」の設立総会と設立趣意書締結式を開いた。四

者で協力し、横輪町特産の山芋「横輪いも」の生産や販売の拡大を目指す。

横輪いもは、おろすと餅のように粘り、地元では昭和初期に九州から種芋が伝わって以来、ご飯やみそ汁と混ぜた「いも汁」で食されてきた。町内の交流施設「郷の恵『風輪』」で販売

され、平成二十二年度には県の「三重のバイオトレジャー」選定を受けて、地域ブランドに育てる機運が高まったが、品質が生産者ごとにばらばらで、寒さに弱い性質のため貯蔵方法の確立も課題となっている。

そこで同協議会を設置し、県が技術面で支援して品質や生産量の向上を目指し、イオンリテールやイオングループのスーパーなど

で、販路を拡大していくこととなった。第一歩として、十二月ごろからイオン伊勢店(同市楠部町)での販売を予定している。

締結式には鈴木健一市長も出席し、四者の代表が趣意書に署名を交わした。上田会長は、「これまでは自家消費に栽培してきたが、生産の維持や拡大に向けて責任をひしひしと感じる」とあいさつ。

岡澤正章イオンリテール執行役員は、「横輪町の知名度が向上し、地域活性化に少しでもお役に立てれば」と語った。

山田社長は時間のかかる15年中の「かかない」と川一名古屋間を指す二の工事には

みえの経済 MIENOKENZAI

新ビニ 半年以 JR東海社 JR東海の は13日、名古屋見し、名古屋の古屋駅新の完成時期が015年末かれる見通しを山田社長は時間のかかる15年中の「かかない」と川一名古屋間を指す二の工事には

伊勢志摩版

新築・増改築のことなら
フォーホーム
津市殿舟 2559-237-4488
見積無料

伊勢市横輪町特産のヤマイモ「横輪いも」の味を全国に広げようと、町住民でつくる「横輪町活性化委員会」と小売業大手のイオンリテール(千葉市)、県、伊勢市が「伊勢の横輪いも推進協議会」を設立した。地域特有の食品生産を支援するイオンリテールの「フードアルチザン(食の匠)活動」の一環。十三日に伊勢市岩淵一の市観光文化会館で設立総会があった。

横輪いも ブランド化を目指す

横輪いもは昭和初期に横輪町で栽培が始まった。強い粘りとシネンシヨのような濃い風味が特徴で、とろろ汁などが長年地元で愛されてきた。

ブランド化を目指す

フードアルチザン活動の対象となつて食品は安納いも(鹿児島県)、宿備かぼちゃ(岐阜県高山市)など全国に二十八件あるが、県内では初めて。観光振興などで連携する協定をイオンと結んでいる県が、横輪いもを推薦した。協議会を構成する四者が協力して横輪いもの生産、加工、販売の課題解決を進め、ブランド化を目指す。



伊勢の横輪いも推進協議会 設立総会・趣意書締結式

県や伊勢市、イオン 推進協を設立

設立総会には関係者約六十人が出席。活性化委員会の上田和夫会長(左)、鈴木健一市長、県とイオンリテールの担当者が設立趣意書に調印した。試食会もあり、出席者は住民が作ったとろろ汁「ご飯などを味わった。



和やかな雰囲気の中で味わった。

受け継いだ味 振る舞う

生まれも育ちも横輪町。特産の横輪いもを使ったとろろ汁作りの腕を買われ、町内で毎年開かれる収穫感謝祭で「とろろ汁作り教室」の講師を務めている。十三日に伊勢市であった横輪いも推進協議会設立総会でも腕を振るった。



上田会長(前列右端)と生産者ら。横輪いも伊勢市岩淵一の市観光文化会館で。

上田 笑子さん(80) 伊勢市横輪町

横輪いもは昭和初期に横輪町で栽培が始まった。強い粘りとシネンシヨのような濃い風味が特徴で、とろろ汁などが長年地元で愛されてきた。

横輪いもは昭和初期に横輪町で栽培が始まった。強い粘りとシネンシヨのような濃い風味が特徴で、とろろ汁などが長年地元で愛されてきた。



2期目の初登庁をし、花束を受け取る小山町長。南伊勢町役場南勢庁舎で。

細める。とろろ汁の力が、今も夫婦で畑仕事に励み、横輪いも栽培。趣味のカラオケや民謡も楽しむなど元気がいばいだ。

七年後には高齢者の割合が町全体の50%を超えるとの推計もある。町にとって最大の危機「と引き締めこれからの町をしっかりと築いていく先頭に立つのが町職員」と呼び掛けた。

南伊勢町の小山町長 持って町づくりに取り組んで」と訓示した。南勢庁舎では、玄関前に職員約六十人が出て迎え、小山町長は若手女性職員から花束を受け取った。

この後、小山町長は会議室で職員を前に「町内では人口減少と高齢化が進んでいる。

「危機感持って」訓示 南伊勢 2期目の小山町長 持って町づくりに取り組んで」と訓示した。南勢庁舎では、玄関前に職員約六十人が出て迎え、小山町長は若手女性職員から花束を受け取った。

この後、小山町長は会議室で職員を前に「町内では人口減少と高齢化が進んでいる。



川曳の写真などが並ぶ会場。伊勢市南勢町の四郷地区コミュニティセンターで。

式年遷宮に合わせて、内宮、外宮の新正殿へ石を運ぶお白石持行事は七月九日に市内であり、四郷地区は中村、南勢、一宇田、朝熊、鹿海各町の五奉獻団に分かれて参加した。回顧展は、地区の住民有志でつくる地域交流推進委員会が企画した。

互助会とはちがう 『心の会』 入会金5千円のみ 全額無料 光倫会館 0120-114248

志摩市誕生10周年で募集 キャッチフレーズ シンボルマーク 志摩市は、五町合併による市誕生から二〇一四年十月一日に十周年を迎えるのに向けて、市をPRするキャッチフレーズとシンボルマークのデザインを募集している。

市ホームページから応募用紙を取得し、郵送、持参、メールのいずれかで、二十日までに提出する。キャッチフレーズ、シンボルマークいずれかのみ応募も可能。いずれも一点を選出し、十周年事業などで使用する。問い合わせは、市企画政策課 電話0599(44)0205へ。

朝、玄関にて 私 ランドセル 忘れて 枝 桑名市赤尾台、母・川縁和 子 うん なるよ 子 じゃあ 次のパパは誰なん? さかち・まお(6)川 子 まおが大きくなったらパパはおじいちゃんになっちゃうの? 越町高松、父・坂口貴仁

災害時の被災状況報告 森林土木建設協が南伊勢町と協定 森林災害復旧支援等 森林を守る協定書調印式

「横輪いも」ブランド化を

伊勢市民ら
推進協設立 品質安定、販路拡大

伊勢市横輪町で長年 住民でつくる横輪町活性化委員会を中心に、「横輪いも」を地域ブランド生産の拡大を図っている。に育てようと、地元住

民や市などが13日、生産から加工、販売まで一体で取り組む推進協議会を設立した。強い粘りと風味の良さが特徴だが、生産量が少なく、ほとんどが自家消費にとどまっており、品質を安定させ販路の拡大を目指す。

横輪いもは昭和初期に九州から種芋を持ち帰って栽培したのが始まりとされる。2011年に県内の農林水産資源を発掘する県のバ イオトレッジャーに認定されたのを機に、地元

委員会によると、現

在は二十数軒で栽培されているが、それぞれ作り方が異なるという。また寒さに弱いため、土に埋めて保存している。今後は量産化に向け、品質管理や貯蔵方法の確立が課題となっている。

推進協議会は、活性

化委と市、県、大手スーパーを経営する「イオンリテール」の4団体で構成。総会では設立趣意書を交わした。参加者は試食会で芋汁ご飯などを味わった。

横輪いも推進協議会の後、試食をする参加者



た。

上田和夫・活性化委員会会長は「横輪いもは普段の手入れが難しい。品質管理の方法を

検討するため、試験栽培を始めている。今後は加工品にも取り組みたい」と話した。

【新井敦】